



船首側から見た第88惣寶丸。大きなバルバスパウ、前部にまとめられた居住区が特徴
(写真はいずれも工事中のもの)

(株)福島漁業が新造、(株)三保造船所が建造



横から見た第88惣寶丸。甲板が長く、居住区が大きい



最後尾から見た第88惣寶丸。トン数以上に大きく立派に見える

北部太平洋巻網のミニ船団化実現に関する「漁船漁業構造改革推進会議」による方針

「漁船漁業の構造改革に向けての提言（漁船漁業構造改革推進会議中間取りまとめ）」から抜粋

【会議の開催】

漁船漁業構造改革推進会議は、すべて公開で行われた。また、議論を進めるにあたっての共通認識が次のように合意された。

- ①資源状況と漁業経営、後継者問題、漁船船齢の高齢化などを考えた場合、漁船漁業の構造改革が必要。
- ②構造改革は資源の持続的利用を前提に推進。一方で投資に見合う経営が必要であり、これらが整合する技術・システムについての検討が必要。
- ③提案された技術について、技術開発の段階、実証化の段階などの段階に応じた今後の対応を検討。
- ④総トン数規制などの問題のみがハイライトとなることなく、全体の改革の中の部品の1つとして議論し、関係者間で合理的な調整を図るべきである。
- ⑤漁場利用や経営面など、実行段階でのさまざまな問題についても検討。

【新技術（システム）導入に際する実務的課題】

- ①漁獲能力の増大につながらない漁船の大型化
安全性の向上、居住・作業環境の改善、あるいは機械化による省人化、メンテナンス簡略化などに必要な漁船の大型化は、漁獲能力を増大させない範囲内であれば基本的に容認。
- ②新技術（システム）導入がもたらす漁獲圧増加可能性に対する懸念払拭のための対応
今回の具体的な提案は新技術導入による漁獲圧（漁獲能力）の増加は想定なし。しかしながら、導入は段階的に行うなど、慎重な導入に努めるほか、導入後は資源管理、漁業調整上の規制の順守を確保する。

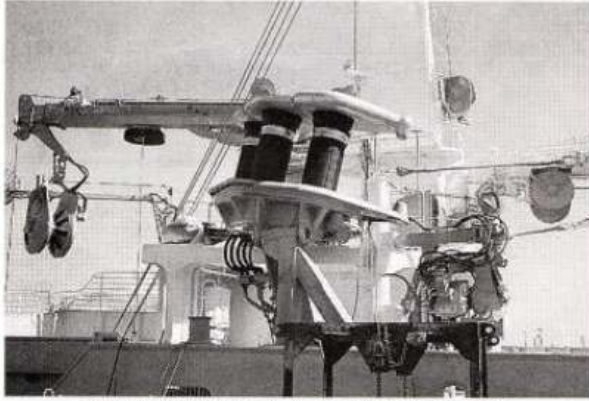


構造改革推進会議

具体的提案のあった新たな漁船漁業像について

案 件	技術の現状	資源管理上の問題	今後の方向	具体的な導入計画(予定)
巻網漁業（太平洋海域） ・従来の体制（網船、運搬船2隻、探索船1隻の5隻体制）を、運搬機能付き網船、運搬船1隻の2隻体制にミニ船団化 ・建造費、検査、保守管理費、乗組員経費、燃料消費費などの削減による経費削減 ・居住環境の改善	・現水産総合研究センター開発調査部（旧海洋水産資源開発センター）による実証試験も実施されており、技術的にほぼ確立 ・早期導入を希望する漁業者も存在	・提案された船団であれば、現行船団に比べ1船団当たりの漁獲能力が増大することはない（網規模は変えないが、船団隻数の減少により探索能力は低下、網船の寄港回数の増加により、見込み漁獲量は減少）	・鮮度保持の問題、探索能力の低下などの問題はあるも、経営収支の改善、安全性向上の効果があり、技術的にもほぼ確立。漁業者による実用化に向けた作業が早急に開始されるべきだ。導入後は漁獲圧が増大しないことなどを検討していくことが必要	・16-17年度＝導入希望漁業者による新船建造および漁業者による試験操業開始 ・17-19年度＝次期一斉更新にて正式導入（既存制度に追加）を視野に、制度化について関係者間で協議し、処理方針決定

(注)「具体的な導入計画」は今後の方向についての推進会議の取りまとめを受け、第4回会議において事務局から報告されたもの。



揚網作業もトリプレックスの使用で効率化



居室はすべてILO基準に合った大型のものとなり、快適になった